

心臓や血管の変化	周産期心筋症とは	発症頻度	発症しやすい妊婦	症状	検査	治療	生活の注意点	次の妊娠
----------	----------	------	----------	----	----	----	--------	------

[トップ](#) > [リンク集](#)

## リンク集

- 周産期心筋症(医療者向け)
- 国立循環器病研究センター
- 国立循環器病研究センター病院
- 国立循環器病研究センター 周産期・婦人科
- 厚生労働省

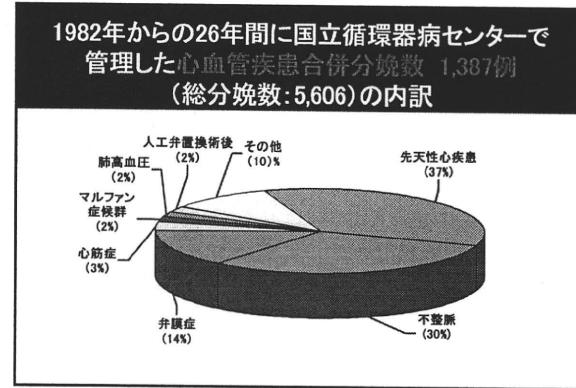
[▲このページの先頭へ](#)

更新日2010年05月07日 Copyright (C) 2010 国立循環器病研究センター 周産期・婦人科 | [HOMEへ](#) | [サイトマップ](#) | [リンク集](#) |

National Cerebral and Cardiovascular Center

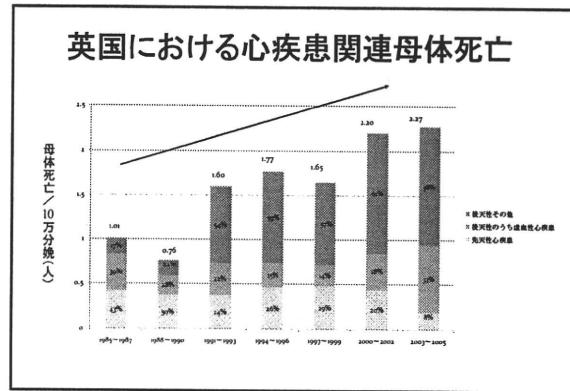
## 妊産婦と循環器疾患 ～心血管疾患合併妊娠、 周産期(産褥)心筋症の UP to Date～

国立循環器病研究センター  
周産期・婦人科  
再生医療部  
池田 智明



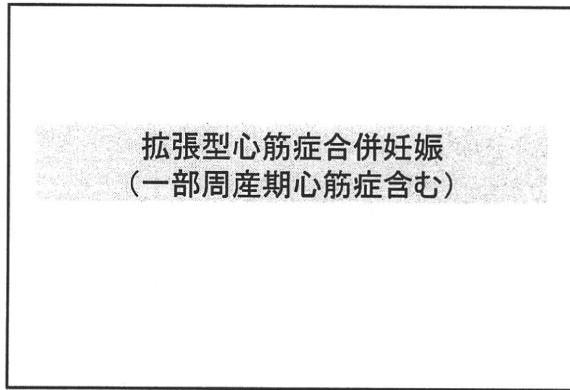
心血管疾患合併妊娠における妊産婦死亡例  
(1982~2010年、国立循環器病センター、分娩後1年内)

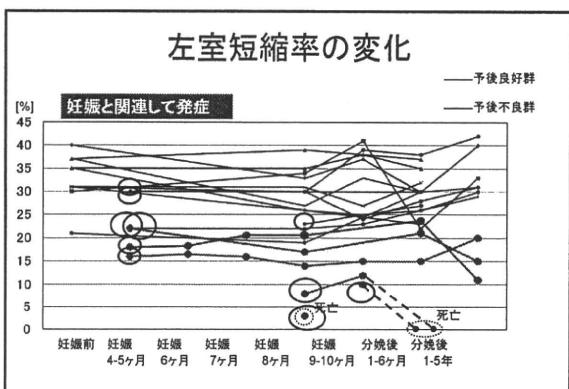
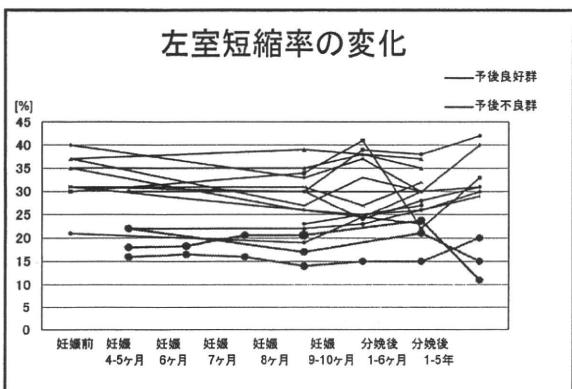
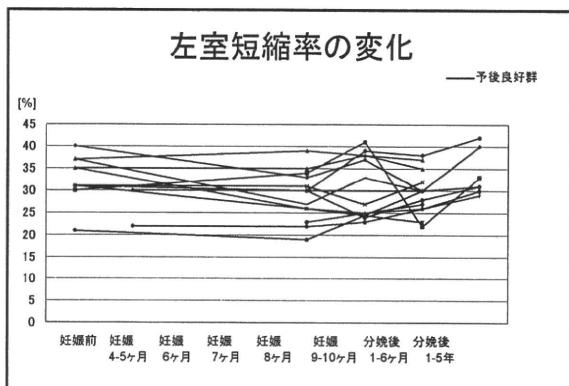
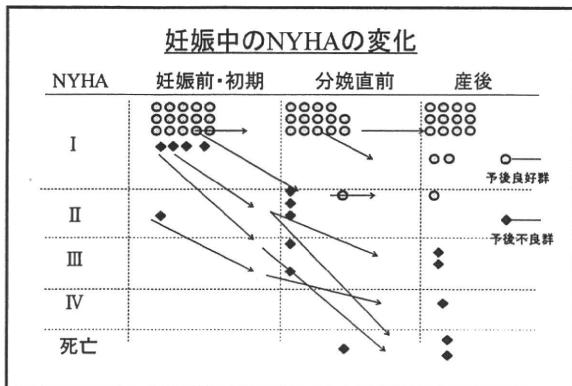
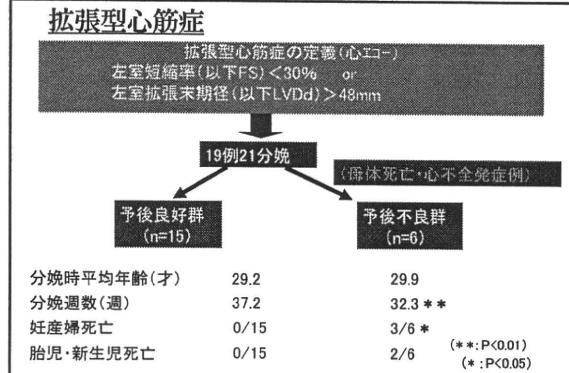
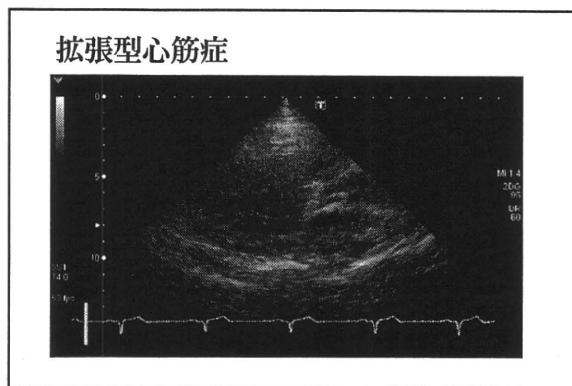
心疾患名	年齢	妊娠週数	分娩様式	紹介～分娩	死亡時期	経過
1.原発性 肺高血圧症	29	0	32週 帝王切開	2日	产后死亡	母体心不全による人工早産、 麻酔導入時に母体心停止
2.大動脈弁置換後 (機械弁)	35	0	30週 帝王切開	23日	3日	抗凝固薬を自己判断で中止 血栓形成のため、緊急で開心術
3.妊娠型心筋症	24	1	34週 経産	29日	5ヶ月	不整脈増加のため人工早産
4.妊娠型心筋症	27	0	34週 帝王切開	2時間	3ヶ月	入院直後母体心不全(IUFD)
5.妊娠型心筋症	33	4	27週 帝王切開	1時間	产后死亡	医療機関未受診、甲状腺腫合併 (IUFD)
6.完全房室ブロック	36	1	39週 予定帝王切開	11日	2.5ヶ月	一時ペーシングリード挿入し帝王切開、 分娩後2.5ヶ月でPulseless VF



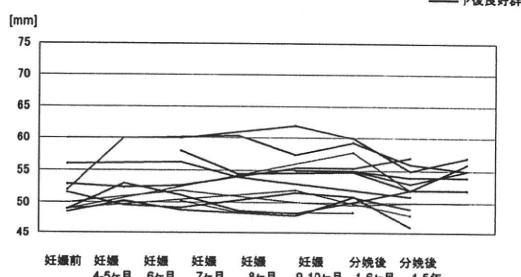
### 英国における心疾患関連母体死亡の内訳 (2003-2005)

		産褥6週以内	産褥1年以内
後天性	大動脈解離	9	0
	心筋梗塞	12	4
	虚血性心疾患	4	0
	突然死症候群(SADS)	3	9
	周産期心筋症	0	12
	心筋症	1	4
	心筋炎	5	0
	弁膜症	3	0
	心内膜炎	2	2
先天性	肺高血圧症	3	0
	その他	3	2
計		47	34

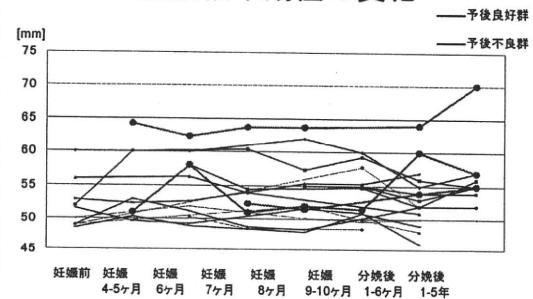




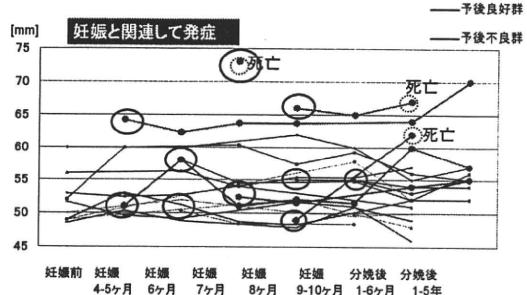
### 左室拡張末期径の変化



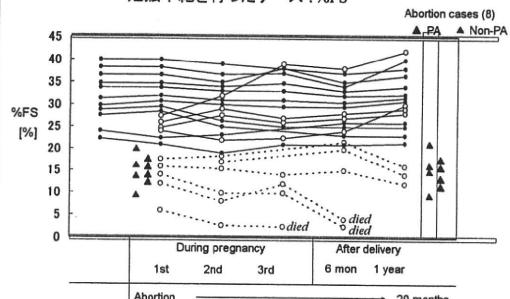
### 左室拡張末期径の変化



### 左室拡張末期径の変化



### 妊娠中絶を行ったケース :%FS



### 周産期(産褥)心筋症

Peripartum Cardiomyopathy (PPCM)

### 周産期(産褥)心筋症とは

(Demakis JG. Circulation. 1971, NIH workshop recommendations. JAMA. 2000)

- ① 分娩前1ヶ月から分娩後5ヶ月以内に新たに心不全の症状が出現
- ② 心疾患の既往がない
- ③ 他に心不全の原因となるものがない
- ④ 左室収縮能が低下 (LVEF<45~50% or %FS<30%)

母体死亡につながる重要な疾患だが、わが国では大規模な調査が行われたことがなく、実態不明

↓  
後ろ向き全国調査を実施

## 周産期心筋症全国調査

厚生労働省科学研究「子ども家庭総合研究事業」乳幼児死亡と妊娠婦死亡の分析と改善に関する研究、  
「難治性疾患克服研究事業」「わが国初の周産期心筋症の全国後方視的・前方視的症例調査に関する研究」

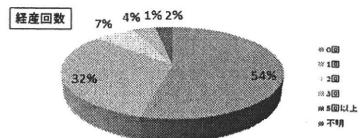
対象施設：循環器専門医認定施設（1030施設）  
周産期専門医認定施設（1025施設）  
救命救急専門医認定施設（431施設）  
全2486診療科、1478施設

対象患者：2007年1月～2008年12月に  
診療した新規心不全発症例  
登録方法：インターネット登録  
登録期間：2009年1月から6月30日



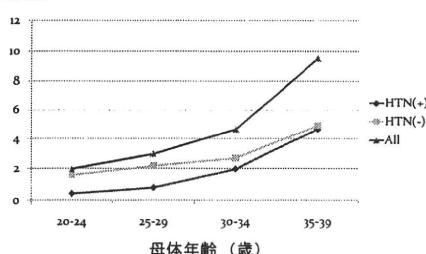
## 全国調査結果（アンケート回収率73%）

- 症例数 102例 ⇒ 発症率約1/2万分娩
- 発症年齢 平均32.7歳（22-43歳）
- 経産回数 初産婦>経産婦



## 年齢別発症率

（人/10万分娩）

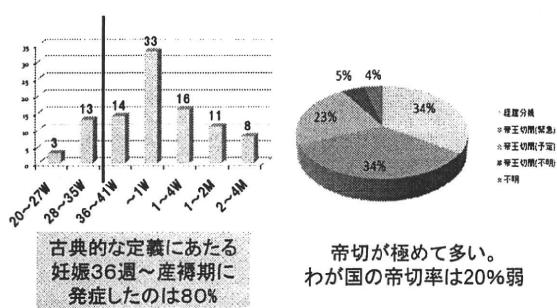


## 妊娠合併症

- 多胎 15%
  - 子宮収縮抑制剤の使用 14%
  - 妊娠高血圧症候群合併 38%
- 危険因子

- 2007年の双生児出生率（出産母体総数に占める双胎出産者の割合）は約1～2%
- 一般に早産率は約6～8%
- 一般に妊娠高血圧症候群合併は約6%

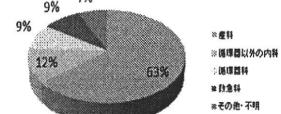
## 発症時期と分娩方法



## 初発症状と初診医

- | 症状   | 割合  |
|------|-----|
| 息切れ  | 80% |
| 咳    | 37% |
| 浮腫   | 37% |
| 倦怠感  | 24% |
| 動悸   | 20% |
| 体重増加 | 16% |

正常妊婦も訴える症状  
(軽症例が見逃されている可能性)



普段心不全を見慣れない医師が初診  
(治療の遅れ、連携不足の可能性)

## 発症時期別に見た胎児予後

・妊娠中発症 30人  
子宮内胎児死亡 3人  
子宮内発育遅延 2人  
未熟児網膜症 1人  
胎児仮死 1人  
敗血症 1人

・産褥発症 68人  
合併症なし



## 初診時心機能

### NYHAの心機能分類

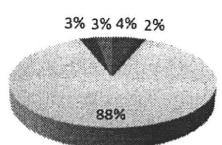
I	3 % (不整脈で発見)	II	11 %	III	24 %	IV	54 %	不明	8 %
平均左室拡張末期径 (LVDd)	56.5mm								
平均左室収縮末期径 (LVDs)	47.9mm								
平均左室短縮率 (%FS)	15.8 %								
平均左室駆出率 (LVEF)	31.6 %								
平均血清 BNP	1258pg/ml								

BNP: 正常値<約20pg/ml(施設により正常値に若干の差はあり)  
100未満は4人、200未満は6人

→ 簡易な診断ツール

## 転帰

母体死亡 4人 (心不全死 3人、不明 1人)  
LVAS装着し心移植待機 2人



退院症例では、平均入院期間 34.4日

## 最終診察時心機能 (平均観察期間9.6ヶ月)

NYHA I	70 %	II	14 %	III	1 %	不明	15 %
mean LVDd	49.0mm						
mean LVDs	34.8mm						
mean %FS	29.6 %						
mean LVEF	54.6 %						
mean BNP	44pg/ml						

最終的に%FS<30% 33%  
死亡や移植待機例も含めると…  
心機能低下残存or重症心不全 42%

心機能回復あり: 最終診察時の左室短縮率≥30%  
心機能回復なし: 最終診察時の左室短縮率<30%

	心機能回復あり (n=45)	心機能回復なし (n=45)	p-value
初診時左室拡張末期径 (mm)	53.7 ± 7.3	59.0 ± 6.2	p<0.01
初診時左室収縮末期径 (mm)	45.1 ± 8.4	50.2 ± 7.5	p<0.05
初診時左室短縮率 (%)	16.4 ± 7.3	15.3 ± 6.9	ns
初診時左室駆出率 (%)	33.1 ± 12.1	29.4 ± 12.5	ns
喫煙歴あり	10人	4人	ns
子宮収縮抑制剤の使用	5人	5人	ns
多胎妊娠	8人	4人	ns
妊娠関連高血圧症合併	23人	7人	p<0.05

早期発見早期治療が重要

## 国際比較

	日本 2009年 n=102	アメリカ 2005年 n=100	南アフリカ 2005年 n=100	ハイチ 2005年 n=98
平均年齢 (才)	32.7	30.7	31.6	31.8
平均妊娠回数 (回)	1.7	2.6	3	4.3
初産婦 (%)	55	37	20	24
アフリカ系人種 (%)	0	19	100	98
高血圧・妊娠高血圧症候群の合併 (%)	42	43	2	4
子宮収縮抑制剤の使用 (%)	14	19	9	0
多胎妊娠 (%)	15	13	6	6
死亡率 (%)	4	9	15	15

(Sliwa K, et al. Lancet. 2006より引用改変)

## 周産期心筋症と拡張型心筋症

### Rare Variant Mutations in Pregnancy-Associated or Peripartum Cardiomyopathy

Lieske H, Mertens I, van den Berg M, den Hollander M, de Bruin S, et al.  
Human Mol Genet 2012; 21: 2032-2039. doi: 10.1093/hmg/dds387

**背景** 妊娠中の心筋症は、妊娠中の心筋症の原因として、心筋病変の持続性がある。この疾患は、母体の心筋病変によって引き起こされることが多い。しかし、妊娠中の心筋病変が原因で心筋病変が持続するかは、まだ明確ではない。

**方法** 本研究では、妊娠中の心筋病変を有する女性の心筋病変の原因を調査した。心筋病変の原因としては、心筋病変の持続性があるか否かが重要な要素となる。

**結果** 妊娠中の心筋病変を有する女性の心筋病変の原因としては、心筋病変の持続性があるか否かが重要な要素となる。

遺伝性DCM患者の家族歴を詳細に調べると、周産期心筋症の診断基準に合致する患者が散見され、彼女においても同じ遺伝子異常が見つかった。(PPCMの中にDCMが紛れている！)

## 自験例:30代女性

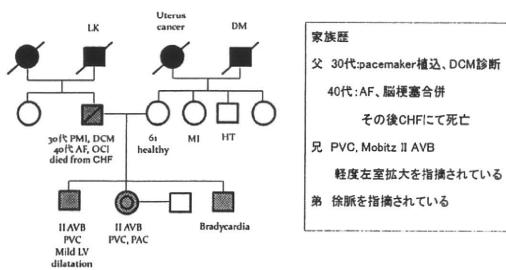
【既往歴】20代より会社の検診にてI度AVブロックを指摘。

30歳:近医にてI度AVブロック、PVCとBNP軽度上昇を指摘され、当院内科受診。NYHA I度。

### 【初診時検査結果】

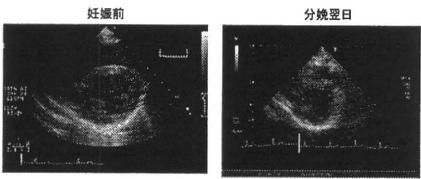
UCG	LVDD/Ds = 45/30, %FS = 33%, IVS/PW = 7/7. 各弁も正常
Chest XP	CTR 51%
運動耐容能検査	peak VO <sub>2</sub> = 41.0 mL/min/kg(121.6%)とw.n.l.
ECG	I° AV block, V1~V4 low voltage, PAC, PVC合併
BNP	60.8 pg/mL

## Family pedigree



## 妊娠経過(1)

第1子妊娠時:妊娠中は、初期・中期・後期に心エコー、ホルター心電図検査を行うも、著変なく、NYHA I度で経過。自然経産分娩となった。  
分娩翌日、食後・授乳後にしんどくなるとの訴えが出現。CXP、心電図、ホルター心電図、BNP値は分娩前と変わらず。心エコーにてLV mid~apexにcontractionのごく軽度低下を認めたのみ(%FS:28%)。産褥半年間、同様の倦怠感、心エコー所見が持続した。



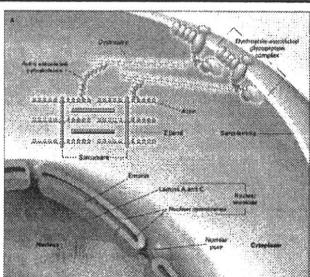
## 妊娠経過(2)

第2子妊娠時:妊娠29週で活動がしんどくなったとの訴えあり。心エコー上左室収縮能低下。また、胎児発育も不良であったため、入院管理を行った。入院後、更なる心機能低下を認めなかっ

# GA	8w1d	26w6d	32w6d
LV DD/Ds	45/30.0	43/32	44/31
%FS	33%	27%	29%

ブロックが心筋症に先行する家族歴を有しており、遺伝性心筋症を疑い、カウンセリングの後、本人同意の下、遺伝子検査を施行。

妊娠術器NSVTが頻回に出現したことから妊娠38週に剖腹開腹を試みた。しかし、オキシントン負荷時に胸部不快感を訴え、相談の上予定帝王切開での分娩となった。  
前回授乳後の倦怠感が強かったことから、ご本人が抗プロラクチン療法を選択され、初乳授乳後プロモクリプチン内服を6週間行った。  
産褥心機能は心エコー上正常下限に保たれたが、ホルター心電図では、自觉症状を伴うNSVT(7連, rate 180)を認め、少量βプロッカーより開始した。



LMNA関連DCM:  
核膜蛋白であるlamin Aとlamin Cをコードしている遺伝子(LMNA)のボイントミューテーションにより発症。  
家族性DCMの中でも多い。

*(Jaffrezo et al. Lancet 2010; 375: 752-62)  
初期には剥離性心筋症の異常をきたすことが多い。その後DCM、心房細動、塞栓症を合併する。*

*(Mahato et al. Curr Opin Cardiol. 2009; 24: 207-208)*

本症例では、LMNA: Exon 7、432番目のpoint mutationを認めた

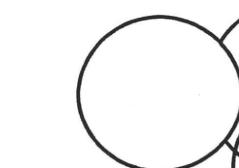
Glu432Stop

Fatkin et al. N Engl J Med 1999;341:1715-24

## 周産期心筋症＝

(PPCM)

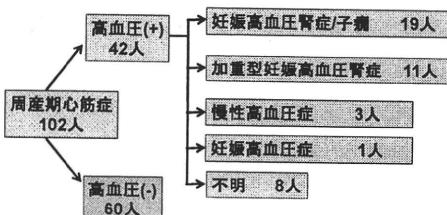
現段階では、疾患特異的な診断項目がなく、Heterogeneous



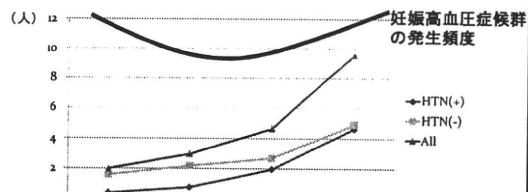
遺伝性DCMや心筋炎は  
きちんと診断をつけて  
PPCMから除外すべき

もっともメジャーな  
高血圧合併症例  
を研究すれば、  
疾患特異的なもの  
が見つかる？？

## 妊娠関連高血圧症の合併有無による全国調査結果の検討

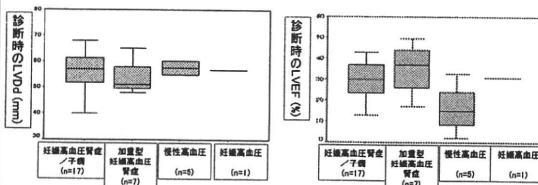


## 10万出産あたりの年齢別発症率

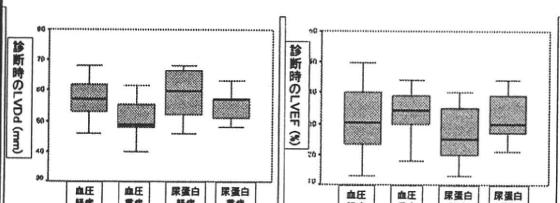


高血圧合併患者のほうが、年齢とともに発症率も増加する割合が大きい  
妊娠高血圧症候群の年齢別発症頻度と分布が異なる

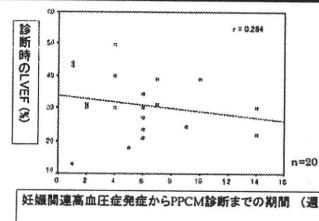
## 妊娠関連高血圧症の分類と初診時心機能(左室拡張末期径(LVDD)、左室駆出率(LVEF)は無関係



## 高血圧・蛋白尿の重症度と初診時心機能(左室拡張末期径(LVDD)、左室駆出率(LVEF)は無関係

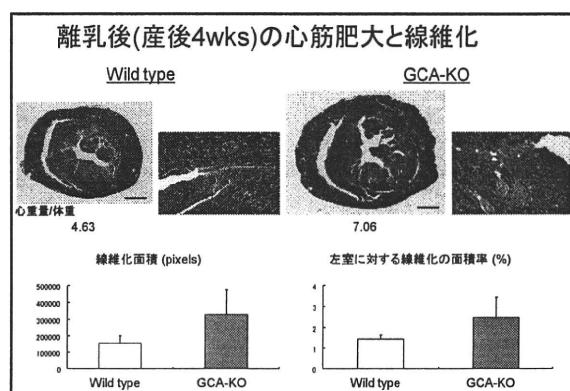
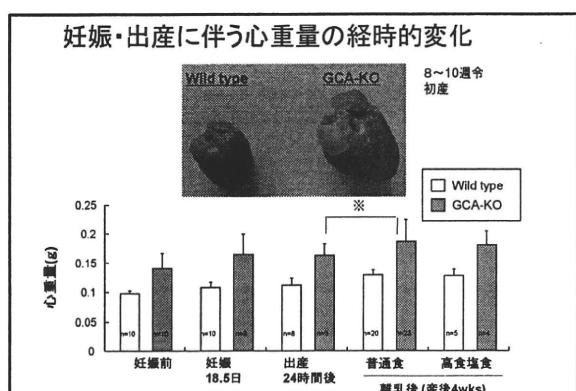
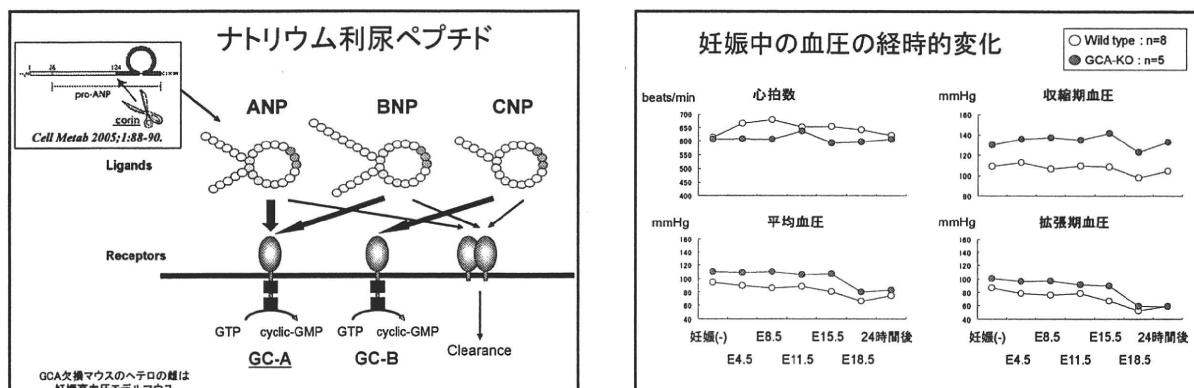


## 妊娠関連高血圧症発症から心不全診断までの期間と初診時心機能は弱い相関



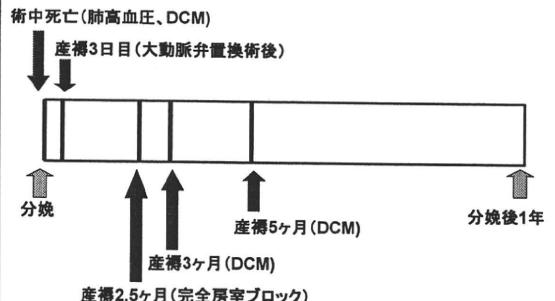
有意差はないが、高血圧発症から心不全診断までの期間が長いほど、  
初診時心機能が低下する傾向があった。

→高血圧合併例で心機能スクリーニングが果たす役割は大きい？



## 心疾患合併妊娠と授乳

### 妊娠婦死亡時期



### 授乳に代表される育児負担に着目し、 産褥心機能について検討

心疾患合併妊娠 57例	心機能非悪化群 (n=49)	心機能遷化群 (n=8)
心機能の悪化の指標： 心エコーによる心機能低下 or 心電図所見の悪化 or NYHAの悪化		
分娩時平均年齢	30.2歳	31.6歳 n.s.
分娩回数	37.2回	35.8回 n.s.
帝王切開施行例	46.9%	100% n.s.

### 心機能非悪化群 (n=49)

### 心機能悪化群 (n=8)

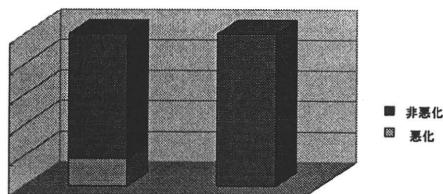
母乳授乳あり	35人 (80%)	8人 (100%)	n.s.
授乳回数(回/日)	7.5 (5-12)	7.1 (5.5-8)	n.s.
睡眠時間	6.5時間	5.8時間	n.s.
家族の支援	あり 5人/なし 17人	あり 2人/なし 4人	n.s.
非授乳例 14人			授乳を中止した2人はその後軽快
産褥期の症状が重篤(10) ATLA陽性(2)			授乳が心機能悪化の原因?

### 授乳を中止により心機能が回復した2例

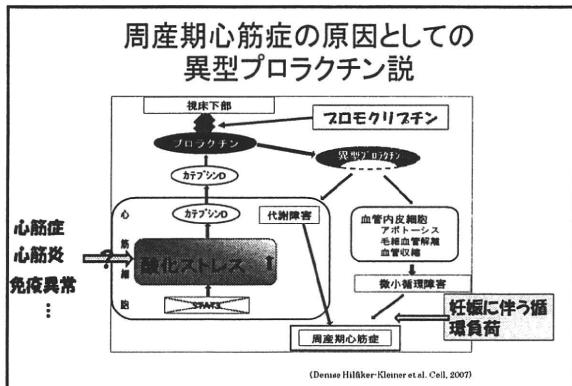
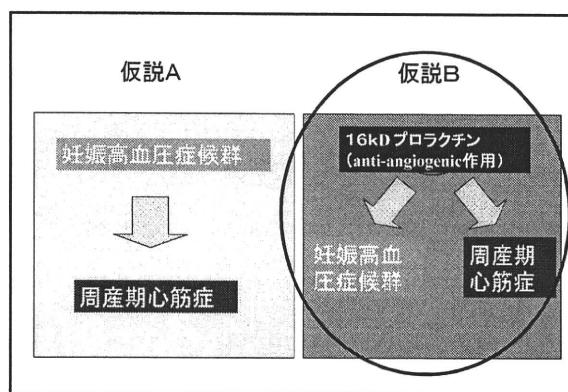
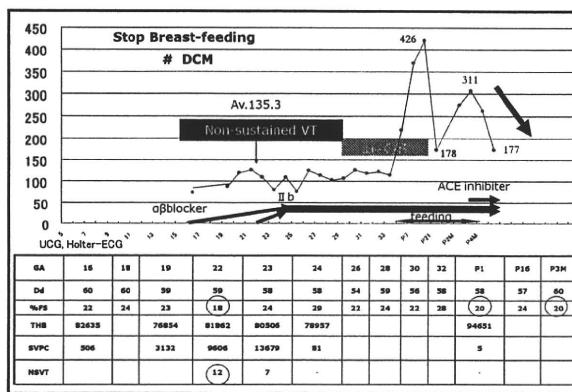
心機能悪化群は、全例授乳を行っていた。  
しかし、その後授乳を中止した2例(拡張型心筋症1例、  
僧帽弁閉鎖不全症1例)は、症状が軽快した。



授乳が心機能悪化の原因か?



産褥期心機能悪化8例は、すべて授乳をしていた



### まとめと考察

- 従来、多産が危険因子の一つとされてきたが、少子化の我が国においては、患者の半数以上が初産婦であった。
- 初診医は、産婦人科医や一般内科医など、普段心不全患者の診療に携わっていない医師が多くいた。その状況下で、血清BNP値は、簡便な診断検査として有用であろう。
- 危険因子や予後などは、欧米先進国とほぼ同等であった。

産褥期の心エコー、心電図(ホルター心電図)は、時間がかかり、煩雑であることから、育児期間中の褥婦から敬遠されがち！

**血中脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)**

心不全重症度評価において、鋭敏な生化学的指標として使用されている。

BNP:Brain Natriuretic Peptide

### 産褥期心機能とBNP値との関連

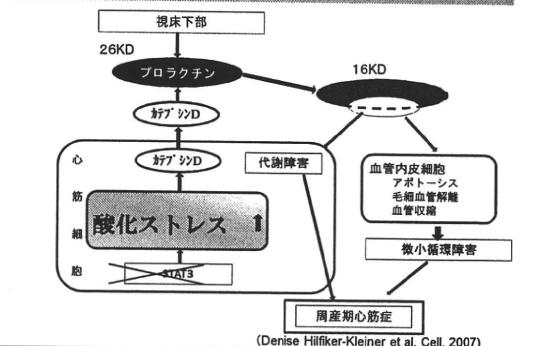
産褥期心機能評価として、血中BNP値は、心機能評価とよく相関する。

BNP値 変化なし (49例)	48	1
BNP値 上昇 (3例)	1	7

P<0.0001

BNP値の上昇：非妊娠時もしくは産褥1ヶ月未満の最小値と比較して、産褥3ヶ月以降に、血中BNP値が20pg/ml以上かつ2倍以上に上昇したもの

### 黒鶴プロラクチンによる周産期心筋症発症メカニズム



# 厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）

## 分担研究報告書

### 切断プロラクチンの周産期心筋症への関与

分担研究者 石田充代 明治大学農学部生命科学科

#### 研究要旨

周産期心筋症患者において、酵素切断を受けたプロラクチン（切断プロラクチン）が心筋障害に関与するという報告がある。

よって本研究では、周産期心筋症や周産期心筋症を含む心疾患合併妊娠において切断プロラクチンが心機能低下に関与しているのかという課題に取り組んだ。その結果、切断プロラクチンは直接的に心筋細胞にダメージを与えないことが明らかになった。そして切断プロラクチンおよびその切断酵素であるカテプシンの測定系を確立することに成功した。

#### A. 研究目的

プロラクチンは、主に下垂体前葉のプロラクチン産生細胞から分泌される分子量約23kDaのペプチドホルモンである。下垂体前葉の他のホルモンが、視床下部由来の促進因子による制御を受けているのとは異なり、プロラクチンは抑制性の制御を受けている。その最も有名なものは神経伝達物質であるドーパミンである。プロラクチンはドーパミン分泌を刺激することにより、プロラクチン自身が過剰分泌を制御している。

また、プロラクチンは選択的スプライシング、二量体を形成したビックプロラクチン、糖鎖付加、リン酸化そしてプロテアーゼ切断と様々な異型プロラクチンが報告されている。

中でも本来のプロラクチンとは拮抗的作用を有する切断プロラクチンは、抗血管新

生因子作用が多数報告されている（図1）。

血管新生とは胎児や発育中には盛んに行われているが、大人になると創傷治癒、女性性周期に伴う子宮内膜の周期的な肥厚、妊娠中の胎盤増殖や子宮内膜肥厚などに限定されている。この血管新生を阻害するのが抗血管新生因子である。プロラクチンはホルモンの性質上、妊娠時の胎盤や胎児における血管新生と血液循環コントロールに寄与していると考えられる。

実際、切断プロラクチンは *in vitro* および *in vivo* の両方で抗血管新生性を示すことが明らかにされている。例えば、脳血管内皮細胞を切断プロラクチンにて処理すると、アポトーシスを増加させる。

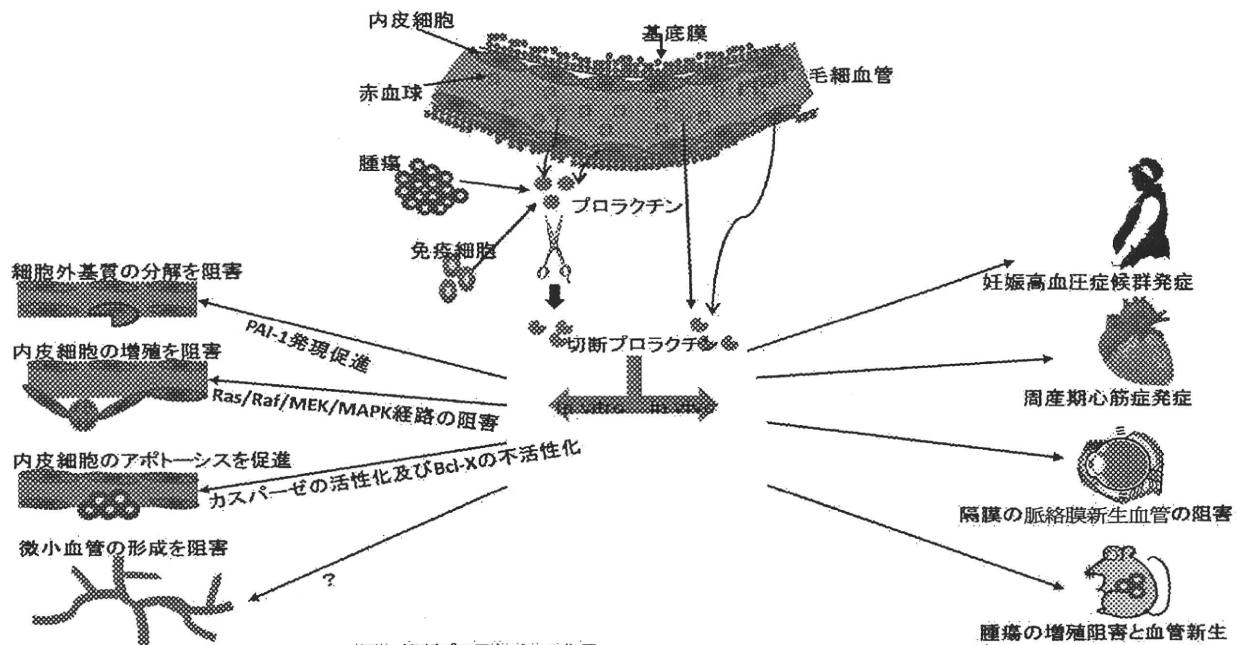


図1. 切断プロラクチンの作用

さらに、脳血管内皮細胞を用量依存的に切断プロラクチンで処理すると  $I\kappa B\alpha$  分解を誘導し、 $NF\kappa B$  の核への移行およびレポーター遺伝子を活性化することでアポトーシスを促進する。切断プロラクチンによる細胞増殖阻害は G1-S および G2-M 相の両方で細胞周期停止を誘導することによるこどもわかっている。in vivo 実験では、マウスにおいて皮下移植したアデノウイルスベクターに融合したヒト切断プロラクチンは肺癌での腫瘍増殖を阻害し、転移を 50% 抑制した。また、同様のアデノウイルスベクター融合切断プロラクチンは、糖尿病性網膜症モデルマウスにおいて血管新生を阻害し、糖尿病性網膜症患者血清において、切断プロラクチンが検出されたという臨床報告もある。

上記のように、切断プロラクチンの抗血管新生因子としての期待が高まる中、2007 年ドイツハノーファー医科大学の Denise Hilfiker-Kleiner らより切断プロラクチンが周産期心筋症の病因であるという報告

がなされた。彼女らは、周産期心筋症モデルマウス（心筋の Stat3 ノックアウトマウス）において、心筋内酸化ストレスが上昇し、カテプシン D 產生されていることを示した。そしてカテプシン D が血中のプロラクチンを切断し、この切断プロラクチンが心筋細胞の代謝障害や血管内皮細胞のアポトーシスを引き起こしていることを同定した。さらに、このマウスにプロモクリプチニンを投与すると心筋症を発症しないこと、実際の周産期心筋症患者の血清中にも切断プロラクチンが出現していることもあわせて報告した（図 2）。さらにアデノウイルスにより切断プロラクチンを心筋特異的に過剰発現させても周産期心筋症を発症する事を明らかにした。本来のプロラクチンは心筋細胞において、酸化ストレスを減少させ、STAT3 を活性化する。その結果、血管新生と心臓增大によりむしろ周産期心筋症から保護している。このことからも、血管新生におけるプロラクチンと切断プロラクチンの相反する作用は、血管新生バランスを維

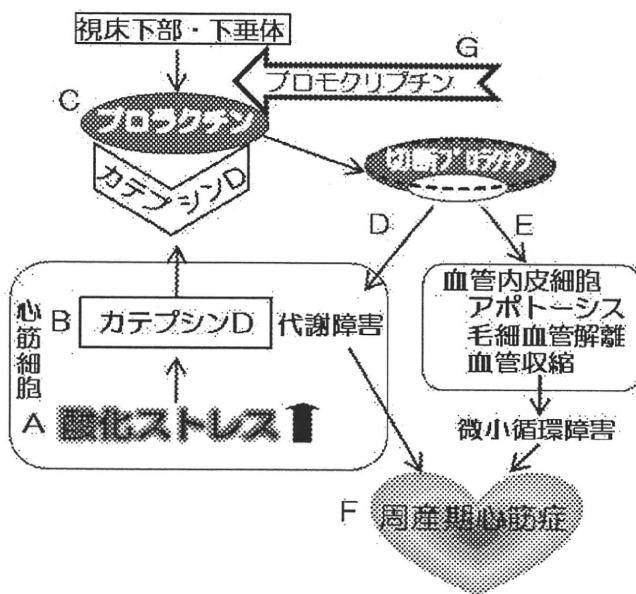


図2. 周産期心筋症発症メカニズム仮説

持するための正と負のシグナルにより臨機応変に対応していると言える（図3）。

そしてもう一つ、切断プロラクチンとの関連が示唆されている疾病に、妊娠高血圧症候群がある。この妊娠高血圧症候群は国立循環器病研究センターの神谷らの報告によると、周産期心筋症との合併率38%と非常に高い。プロラクチンと妊娠高血圧腎症の関連は30年以上前から研究されており、近年には、妊娠高血圧腎症患者尿中プロラクチン濃度が健常妊娠者と比較して高く、重度になるにつれてプロラクチン濃度が上昇する事や、重症妊娠高血圧腎症患者尿中からはプロラクチン断片が検出されたという報告がある。また、妊娠高血圧腎症患者血清中や羊水からも切断プロラクチンが検出され、その羊水は血管内皮細胞増殖因子

- A) 妊娠に伴い心臓血管形成機能が亢進するが、一部の妊婦では酸化ストレスが増加
- B) 酸化ストレス増加に伴いプロラクチンを切断するカテプシンD発現と活性が上昇
- C) カテプシンDによりプロラクチンが切断プロラクチンへ変化
- D) 切断プロラクチンにより酸化ストレスと活性化カテプシンDの影響が加速
- E) 切断プロラクチンが内皮細胞のアポトーシスや毛細血管の解離、心筋細胞内の代謝障害を誘導
- F) 心臓機能不全発症
- G) プロモクリップ投与でプロラクチン発現を抑制すると心機能が改善

(VEGF)による内皮細胞増殖を阻害したという報告もある。さらに、Masumotoらは岡山大学病院において4人の重症な妊娠高血圧症の胎盤において、プロラクチン断片を検出している。これらの結果は、低酸素濃度により酸性環境になってしまった妊娠高血圧症患者の胎盤において、カテプシンDによるプロラクチン切断が起こることを示唆しているのかも知れない。

そこで、本研究では、実験動物及び細胞を用いた基礎実験と検体血清を用いた診断方法の確立の2点から以下の研究を展開した。基礎実験は、ラット心筋株化細胞及び妊娠マウスを用い、切断プロラクチンが増加するだけで、心筋症を発症し得るのかを解析した。診断方法の確立では、プロラクチン切断酵素であるカテプシンD活性と切



図3. プロラクチンと切断プロラクチンの関係仮説

断プロラクチン量を、検体血清を用いて測定した。

## B. 研究方法

### ラット心筋細胞に対する切断プロラクチンの影響

#### ● 心筋細胞培養

ラット胎児心臓由来の心筋細胞株H9c2細胞を用いた。細胞とウシ胎児血清(FBS)は American Type Culture Collection (ATCC) から購入し、10%FBS とペニシリン、ストレプトマイシンを含む Dulbecco's modified Eagle's medium(DMEM, シグマアルドリッヂ ジャパン株式会社)を培養培地(growth medium : GM)として用いた。

#### ● 実験動物

Jcl : Wister 系ラットは日本クレア株式会社から購入した。動物室は明期、暗期が共に 12 時間となるように照明管理を行い、1 年を通じて一定の温度、湿度(22±2°C、60%)となるように空調管理し自由給水、自由給餌(ラボ MR ブリーダー、日本農産工業)とした。屠殺はソムノペンチル(共立製薬株式会社)を PBS で 10 倍希釈し、腹腔注射麻酔後、体重(BW)を測定し、ヘパリン(10unit/ml)含有飽和カリウム(和光純薬工

業株式会社)PBS を尾静脈注射することにより心停止を誘発させた。

#### ● SDS-PAGE およびイムノプロット

細胞はフルコンフルエント 100mm dish 1 枚分をトリプシン EDTA で処理後、1ml の抽出 Buffer(Tissue Protein Extraction Reagent、Inhibitor Cocktail kit (Thermo Fisher Scientific Inc.))に溶解して破碎した。破碎後は、タンパク定量キット 2-D Quant Kit(GE healthcare Japan)にて定量し、タンパク量が等しくなるよう抽出 Buffer で調整した。15%SDS-PAGE を行ない、セミドライ式転写装置を用いて PVDF メンブレン(Millipore K.K.,)に転写後、10% EzBlock(ATTO 株式会社)でブロッキングした。一次抗体は N 末端認識抗体 (10052 抗体) もしくは C 末端認識抗体(10053 抗体)、二次抗体は peroxidase labeled anti-rabbit IgG (Vector Laboratories) を用い、Immobilon Western Chemiluminescent HRP Substrate (Millipore K.K.,) にて発光させ、LAS4000(富士フィルム株式会社)にて検出した。

#### ● RT-PCR および Real Time PCR

細胞の RNA 抽出は 60mm dish 1 枚を用い

		配列		増幅領域
GAPDH	forward	5' - CACCCAGAAAGACTGTGGA -3'		
	reverse	5' - TGTGAAGTCGCAGGAGA -3'		313bp
プロラクチン	forward	5' - GCTGCCAATCTGTTCCGCTG -3' *		270bp
	reverse	5' - ACTCGAGGACTGCACCAAAC -3'		
プロラクチンレセプター	forward	5' - AAGCCAGACCATGGATACTGGAG -3'		253bp
	reverse	5' - AGCAGTTCTTCAGACTTGCCCTT -3'		

DNA 1本鎖化	アニーリング	伸長反応	サイクル数
95°C	55°C	72°C	40サイクル
20sec	30sec	1min	

表1. PCRプライマー配列及び条件

RNeasy Mini Kit(QIAGEN K. K.)を使用し抽出した。プロラクチン、プロラクチンレセプターは RT-PCR を行い、GAPDH 発現量によるにより半定量を行った。RT-PCR の条件とプライマーを表 1 に示す。cDNA 作成はリバースクリプト IV(和光純薬工業株式会社)、PCR 反応は Go taq Green Master Mix、iCycler(Bio-Rad Japan)を使用して反応を行った。コントロールには未経産メスマウス下垂体を使用した。

Real Time PCR プローブには TaqMan を用いた。内部標準発現遺伝子 GAPDH mm033022949-g1、プロラクチンレセプター mm00599949-m1、VEGF Rn01511606-g1、18s Rn01428915-g1 を用いた。機器は Life Technologies Japan Ltd. 7300/7500/7500 Fast Real Time PCR System (Life Technologies Japan Ltd.)を使用した。

#### マウスへのプロラクチン・切断プロラクチンの影響

##### ● 実験動物

当研究室で系統維持、飼育している ICR マウスを使用しラットと同様に管理した。

##### ● プロラクチン及び切断プロラクチン

マウスプロラクチンは National Hormone & Peptide Program で購入し、EZ-Link® NHS-PE04-Biotinylation Kit(Thermo Fisher Scientific K. K.)を使用して Biotin 標識した。その後タンパク定量を行い、標識をイムノプロットにて確認した。

His-tag 付加マウス切断プロラクチンは大腸菌由来で作成し、エンドトキシン濃度による影響がないことを確認した。

##### ● 手術

Micro-Osmotic Pump MODEL1004 と Mouse Jugular Catheter (Alzet Osmotic Pumps) を使用した。ソムノペンチルで麻酔後、腹腔内もしくは頸静脈のヘカテーテルを挿入した。カテーテル中の血栓形成防止のためにヘパリンを 10IU/ml 加えた。

##### ● 解剖

投与手術後 1 週間後に解剖を行った。心重量、体重、脛骨長を計測し、採取した心臓は、上側を固定し組織切片として使用し、下側を液体窒素で凍結した。

##### ● SDS-PAGE およびイムノプロット

心臓組織を用いてプロラクチンの有無をイムノプロットにて確認した。切断プロラクチンの検出には一次抗体 Rabbit anti-6-His Antibody Affinity Purified (BETHYL Laboratories, Inc.)、二次抗体 Peroxidase Labeled anti-rabbit IgG (Vector Laboratories)を使用した。プロラクチン検出は streptavidin conj. With Peroxidase (ImmunoBioScience Corp.)にて行った。

#### 周産期心筋症におけるカテプシン D 測定法の確立

##### ● 患者血清

「周産期心筋症における切断プロラクチン測定法の確立」と同様の検体を用いた。出産後 1 ヶ月の入院時（心機能悪化後）、プロモクリプチン投与後（心機能回復後）である。比較対照として、出産後 1 ヶ月の血清 3 検体と、健常非妊娠者の血清 3 検体を同時に測定した。入院時の検体は血清ではなく血漿である。

##### ● カテプシン D 測定

カテプシン D 活性は SensoLyte 520 Cathepsin D Assay Kit(ANAspec Inc.)を使用し Kit のプロトコルに則って測定した。この Kit ではカテプシン D により基質が分解されると蛍光が増加し、それによってカテプシン D の活性を測定することができる。血清 50μL に同量のカテプシン D 基質を加えマルチラベルカウンター (Wallac 1420 , Perkin Elmer Japan Co., Ltd.) にてトリプレートで測定した。基質分解産物を段階的に希釈して検量線を作成し、これをもとにカテプシン D 活性を求めた。測定間の誤差をなくすために、コントロールとして健常非妊娠者の血清を置き、これをキャリブレーターとした。患者血清のカテプシン D 活性値をキャリブレーターの測定値で割り、表を作成した。

昨年度までの方法との相違点は、血清を希釈せずに使用すること、基質添加後に直ちに単回の測定を行うこと、測定間誤差をなくすためにキャリブレーターを置くことである。この方法により、以前よりも短時間で測定が行え、また多くの検体を一度に測定することが可能となった。なお、本方法はドイツハノーファー医科大学の Dr. Denise Hilfiker-Kleiner を直接訪問する機会を得、ご教授いただいた。

### 周産期心筋症における切断プロラクチン測定法の確立

#### ● 患者血清

健常非妊娠者および健常妊娠者の血清はボランティアから採血した。周産期心筋症および心不全合併妊娠者の血清は、国立循環器病研究センターもしくは同センターの

神谷千津子氏が総括した周産期心筋症全国調査に協力していただいた施設に入院した患者から採血した。各々の患者について出産前・出産直後・出産後 1 ヶ月の 3 点で採血しそれぞれ①・②・③と表記した。

コントロールとしてヒトプロラクチン (National Hormone & Peptide Program) を用い、切断プロラクチンのコントロールとしてヒトプロラクチンをウシカテプシン D (シグマ アルドリッヂ ジャパン株式会社) にて切断したものを使用した。

#### ● 免疫沈降

血清 250μL を Albumin/IgG Removal Kit (Merck Chemicals Japan) により前処理後、Protein G-Agarose (Roche Diagnostics K. K.) 50μL を 4°C 16 時間インキュベートし IgG を除去した。ヒトプロラクチン抗体 (National Hormone & Peptide Program) を用いて Protein G-Agarose のキットのプロトコル通りに免疫沈降を行った。

#### ● タンパクの分子量と量の測定

免疫沈降サンプル中のタンパク質の分子量と量の測定には Agilent Protein 80 Kit (Agilent Technologies, Inc.) を用いた。Agilent Protein 80 Kit はタンパクの分子量および半定量が可能なシステムで、原理はほぼ SDS-PAGE と同様であるが、少量のサンプルで解析が可能であり、さらに短時間で泳動と検出が出来る。原理の概要は下記の様である。一本鎖にし、蛍光物質を結合させたタンパクを chip に充填したゲル内に注入して電流を流し、蛍光を検出する。検出時間と量で試料中タンパクの分子量と量を計算する。結果は電気泳動図により示され、それぞれのピークのマーカーを基準

とした分子量と内部標準タンパクを基準とした半定量の結果が表示される。

#### (倫理面への配慮)

本研究は、国立循環器病センター倫理委員会にて、平成24年3月31日までを実施期間として実験許可を得た。以下にその内容を示す。

本研究は、厚生労働省・文部科学省の「臨床研究に関する倫理指針（平成20年7月31日）」に従って作成されている。事前に本研究の主旨を、被験者に充分に説明したうえで実施する。また、得られたいかなる個人情報についても秘密が厳守されることを保証する。検体検査を分担する明治大学農学部においては、匿名化し、検体番号のみで識別された検体を使用する。得られたデータは匿名化して保存し、統計結果を公開する際には、個人が特定されない項目を集計・解析したもののみ、発表する。コントロールである健常例に於いては、採血検体を頂くため、侵襲を加えることとなる。それ以外の不利益は特にないと考える。

#### C. 研究結果

##### ラット心筋細胞に対する切断プロラクチンの影響

###### ● 抗体の交差性

当研究室でマウスプロラクチンを抗原として作製したプロラクチン抗体がラットプロラクチンに対して交差性

があるかどうか検証するため、ラットプロラクチンをウシカテプシンDで切断しイムノプロットを行った。その結果、10052抗体は約16kDaのバンドを認識し、10053抗体は約8kDaのバンドを認識した。この結果より作製した抗体はラットプロラクチンも認識する事が示された（図4）。

抗体の交差性が示された上で、H9c2細胞にタンパクレベルでプロラクチンや切断プロラクチンが存在するのか検証した。その結果、心筋細胞ではプロラクチンおよび切断プロラクチンの存在は認められなかった（図4）。

###### ● 心臓および心筋細胞でのプロラクチンとプロラクチンレセプターmRNA発現

ラットから摘出した心臓と培養心筋細胞にプロラクチンやプロラクチンレセプターのmRNAが発現しているかRT-PCRにより検証した。プロラクチンmRNA発現はラットの心臓でも心筋細胞でも確認できなかった。プロラクチンレセプターは心臓でわずかに発現し、心筋細胞では発現していなかった

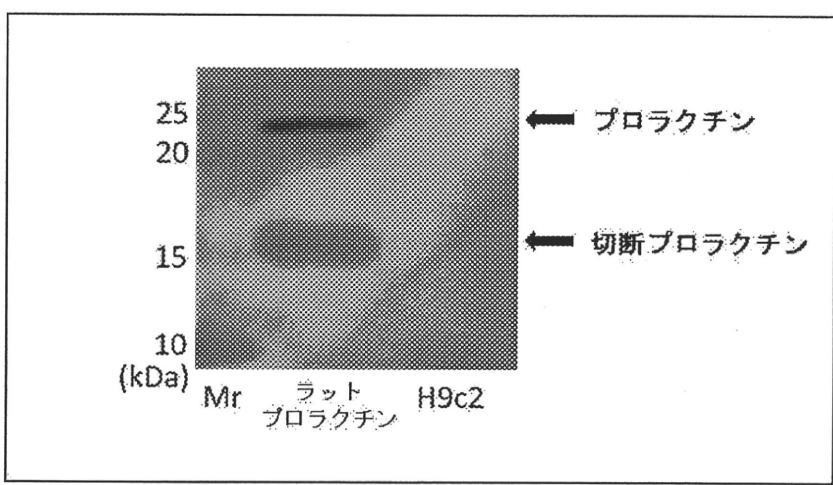


図4.ラットプロラクチンに対するN末端抗体の交差性と心筋細胞におけるプロラクチンおよび切断プロラクチンの存在確認

Mr：マーカー

ラットプロラクチン：ラットプロラクチン2μg(2μL)+ウシカテプシンD200ng(2μL)+カテプシンD Buffer(16μL) 37°C10分 サンプル量20μL

H9c2：H9c2 60μg

(図5)。

- 心筋細胞のミトコンドリア活性に対する切断プロラクチンの影響

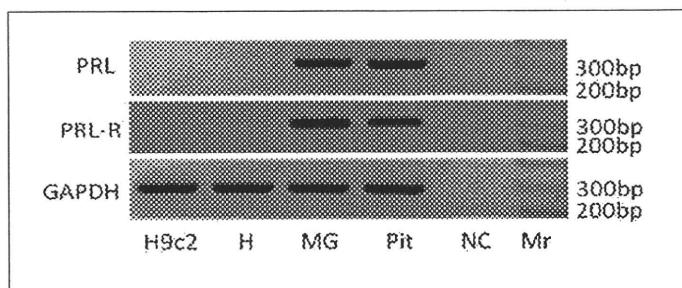


図5. プロラクチンおよびプロラクチンレセプターのmRNA発現  
PRL : プロラクチン  
PRL-R : プロラクチンレセプター

Mr:マーカー

H9c2 : 培養心筋細胞

H : ラット摘出心臓

MG : 乳腺

Pit : 下垂体

NC : no template control

心筋細胞に対するミトコンドリア代謝活性を測定するために MTS assay を行った。切断プロラクチンは血管新生促進因子による細胞増殖を阻害する報告があるため、FBS1% の GM と 10% の GM で試験を行った。その結果、切断プロラクチン添加群と非添加群に吸光度の差は見られず、切断プロラクチンを GM に添加することによる心筋細胞への、代謝、細胞増殖に対する影響は無いことが判明した(図6)。

- 心筋細胞のVEGF生産に対する切断プロラクチンの影響

切断プロラクチン存在下で心筋細胞からの VEGF 生産が抑制される可能性を検討するため、分泌タンパク変化量を ELISA により測定した。培養上清中の VEGF 量を測定す

ると、Buffer を添加することにより VEGF 生産量が、低下した。しかし、切断プロラクチンを添加すると回復するという事が判明した(図7)。

「ラット心筋細胞に対する切断プロラクチンの影響」の考察は以下の通りである。心筋株化細胞とラットから抽出した心臓にはプロラクチンの発現が無く、心臓および心筋細胞でのプロラクチン局所生産は無い。しかし、ヒト臍帯静脈内皮細胞(human umbilical vein endothelial

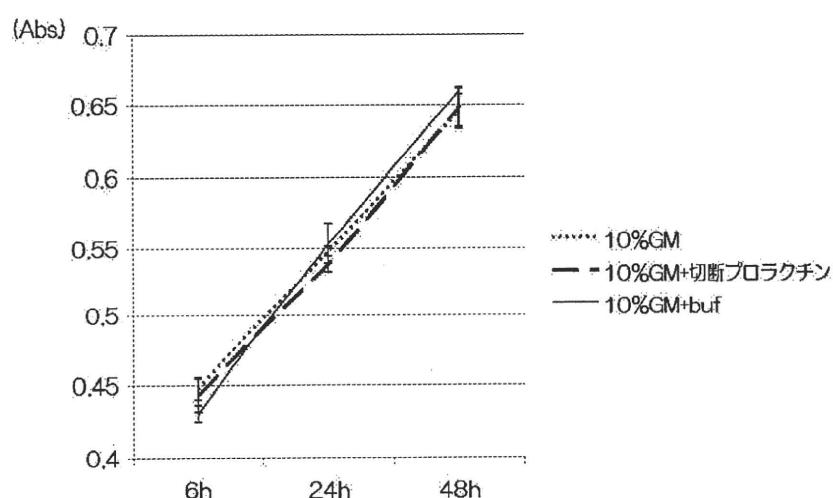


図6. 切断プロラクチンを添加した心筋細胞のMTS assay

Standard.err of MEAN : SE

10%GM : FBS10%のGMで培養

10%GM+切断プロラクチン : FBS10%のGMに切斷プロラクチンを添加し培養

10%GM+buf : FBS10%のGMにBufferを添加し培養

cell:HUVEC) ではプロラクチン mRNA の発現が確認されている。このプロラクチンは HUVEC の細胞増殖に関与していると考察されている。心臓の場合、通常状態では細胞や心臓自体の体積の増減は無いので、血管新生や血管内皮細胞増殖の促進は必要ない。さらに、血管新生が必要な梗塞などの場合でも、骨格筋や心筋からは強力な血管新生促進因子である VEGF が合成・分泌される。そのため、心臓でプロラクチンを局所的に生産するという、下垂体由来の循環